

- ①登場人物の思いの変化を読み取る。
②象徴的に表現されている部分を捉える。

確認

文章の流れをつかもう

「タオル」の内容を、文章の流れに沿って次のようにまとめました。①～⑤にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

少年の祖父が亡くなった。↓悲しいのだが、①が出てこない。

旅行雑誌の記者、父と祖父の知り合い。

・家を訪ねてきたシライさんを、少年が民宿へ案内する。

・少年は、シライさんが撮った②の写真が載った雑誌を見たことがあった。

民宿の食堂で、少年はシライさんの話を聞いた。

少年は、父や祖父の昔の話を聞くのが新鮮だった。

シライさんとともに、少年は家に戻った。

少年は、みんなが祖父を③にしているのが、悲しかった。

少年は、納屋の脇で祖父の④を見つけた。

父とシライさんが、納屋にやってきた。

祖父のタオルを取りに来た。

少年は、祖父のタオルを⑤に巻いた。↓少年の目に①があふれた。

少年の心情の変化

確認

主題をつかもう

次のあらすじを読んで、作品の主題としてふさわしいものをあとから選び、記号で答えなさい。

少年は、一本釣りの漁師だった祖父の突然の死にとまどい、ゆっくり悲しむことができなかった。だが、雑誌記者のシライさんから、祖父や父が写った取材写真を見せてもらいながら祖父の話を聞くうちに、だんだんと祖父の死を受け止められるようになっていった。そして、漁に出るときにいつも祖父が頭に巻いていたタオルを自分の頭に巻き付けた時、祖父のにおいを感じた少年は、祖父の死を受け入れることができた。

この文章において「タオル」は、祖父の死を象徴するものとして描かれている。

ア「タオル」を頭に巻いたことで、生前の祖父の元気な姿が思い出された。
イ「タオル」から、少年は、実感のなかった祖父の死を受け入れられた。
ウ「タオル」は、祖父が毎日身に着けており、祖父のにおいが染みついていていた。

参考資料

【作者紹介】

重松 清…しげまつ しみず

一九六三年（昭和三八年）～。岡山県出身の小説家。子どもの視点から鋭い切り口でテーマを描いた作品を多く出している。代表作に『ナイフ』『エイジ』などがある。

ア 頭 イ タオル ウ 涙 エ 母
オ 祖父 カ 帽子 キ 思い出話

漢字の読み書き

次の——線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| □(1) 帯を締める | □(2) 祭壇の前 | □(3) 肩がこる |
| □(4) 合掌造りの家 | □(5) 宿に泊まる | □(6) 紹介状を書く |
| □(7) 食卓の酢の物 | □(8) しゃれた封筒 | □(9) タオルを掛ける |
| □(10) 楽しい雰囲気 | □(11) 家業を継ぐ | □(12) 母に連絡する |
| □(13) 悔しい敗北 | □(14) 手を拭く | □(15) 風呂に入る |
| □(16) 客にアイサツをする | □(17) いつもとチガう | |
| □(18) ゲンカンを掃除する | □(19) 新年をムカえる | |
| □(20) 赤ちゃんをダク | □(21) ボタンをオす | |
| □(22) 服をキガえる | □(23) 布でオオう | |
| □(24) 荷物をワキに追いやる | □(25) 父のクチゲセが出る | |
| □(26) 遺影にシヨウコウをする | □(27) ココチよい風が吹く | |
| □(28) 忙しくてツカれる | □(29) 兄はハタチになる | |
| □(30) 転んでハズかしい | | |

重要な語句

次の言葉の意味を答えなさい。または、その言葉を使った例文を書きなさい。

④		③		②		①	
かすかな		うつむく		雰囲気		居心地	
例文	意味	例文	意味	例文	意味	例文	意味
	ほんの少しの様子。		下を向く。顔をふせる。	クラスの雰囲気はなごやかだった。		あなたの部屋は、居心地が良いですね。	

問題

次の各文の空欄(くうらん)にあてはまる言葉を、「重要な語句」の中から選び、書きなさい。ただし、空欄にあてはまるように言葉を変化させても構いません。

- (1) 気分が落ち込んだので、ながら歩いた。

- (2) 音がどこから聞こえてくる。

- (3) 江戸時代のが残る町並みを歩く。

- (4) 集合時間に遅れたので、が悪い。

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

- (1) この文章の場面の時間として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 早朝 イ 夕方
ウ 夜 エ 昼過ぎ

- (2) —線①「お待たせ」とありますが、シライさんはどこへ行くこうとしているのですか。文章中から五字で書き抜きなさい。

- (3) —線②「リュックサックのようなバッグ」とありますが、このバッグの説明として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア シライさんが取材のときに使うバッグ。
イ シライさんの礼服が入っているバッグ。
ウ シライさんが漁に出るときに使うバッグ。
エ シライさんが少年の祖父からもらったバッグ。

- (4) —線③「シライさん」とありますが、「シライさん」のことをほかにどのように表現していますか。ここより前の部分から書き抜きなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 厄介払い…邪魔な者を追い払うこと。

グラビア…雑誌などで主に絵や写真で構成されたページ。

(重松 清「タオル」より)

読解のコツ

◎登場人物の思いの変化を読み取る。

少年は、「シライさん」と話すうちに、思いが変化していきます。

↓学習のねらい①

「それがちよっとうれしくて(本文15行目)」→「うれしいというより、ほっとした(本文27～28行目)」→「少し足を速めた(本文40行目)」

「少し足を速めた」のように、思いが言葉で直接表現されるのではなく、行動で表現されることもあります。

□(5) —線④「それがちよっとうれしくて」とありますが、少年はシライさんの言葉に、何を味わってうれしかったのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 安心感 イ 疎外感
ウ 連帯感 エ 幸福感

□(6) —線⑤「亡くなったおじいさん」とありますが、少年の祖父がどのような人だったのが端的に読み取れる一文を文章中から探し、初めの五字を書き抜きなさい。

□(7) —線⑥「見たこと、あります、それ」とありますが、「それ」は何を指しますか。文章中の言葉を使って二十五字以内で書きなさい。

□(8) —線⑦「少年は少し足を速めた」とありますが、このときの少年の様子として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア びくびくしている。 イ はらはらしている。
ウ わくわくしている。 エ おどおどしている。

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

□(1) — 線①「今初めて、それが悲しさと結びついた」とありますが、どういうことですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖父がいけないことを身にしみて感じたということ。

イ 祖父が恥ずかしがりだったことを思い出したということ。

ウ 祖父とあまり話さなかったことに気づいたということ。

エ 祖父が年老いていたことを実感したということ。

☐

□(2) — 線②「そうだった」とありますが、どういう様子だったのですか。それがわかる表現を文章中から十一字で書き抜きなさい。

□(3) — 線③「キュッと頭に巻き付けて」という表現から、どんな様子だとわかりますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア できれば漁に出たくないと思っている様子。

イ 漁に出る前に気合を入れている様子。

ウ 漁のつらさを忘れようとしている様子。

エ はげた頭を見られたくないと思っている様子。

☐

□(4) — 線④「あんまり漁師らしくない」という様子だった父は、今はどんな顔をしていますか。それがわかる言葉を文章中から十五字で書き抜きなさい。(句読点も字数に数えます。)

25

20

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(注) 卸す…小売商に行く前に仲買商に売り渡すこと。

(重松 清「タオル」より)

35

30

読解のコツ

◎象徴的に表現されている部分を捉える。

シライさんが撮った祖父の写真を見ながら、少年は祖父の死を意識します。
そしてシライさんもおじいさんに思いをはせています。

↓学習のねらい②

- ・もうおじいちゃんと話すことはできないんだな。(本文6～7行目)
 - ・もう一度会って写真を撮りたかったんだけど……。 (本文27～28行目)
- 「↓もう写真を撮ることはできない。」

祖父の写真を通して生きていた頃の祖父に思いをはせることによって、「祖父の死」という現実が象徴的に表されています。

□(5) —線⑤「……」には、「祖父」の写真をもう一度撮れなかったことに対するシライさんのどのような気持ちが込められていますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 恥ずかしく思う気持ち。 イ 不安になる気持ち。
ウ 安心する気持ち。 エ 残念に思う気持ち。

☐

□(6) —線⑥「これはおじいちゃんの字だった」とありますが、このときの少年の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 祖父が手書きの一文を添えていたことに感謝する気持ち。
イ 祖父に会えたような気がして感激する気持ち。
ウ 祖父の字がじょうずだったことに感心する気持ち。
エ 祖父の字を見るのが照れくさい気持ち。

☐

□(7) シライさんが、少年の祖父や父と仲よくなったきっかけは何でしたか。文中から十字で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

□(8) ……線A「祖父」、……線B「おじいちゃん」とありますが、このように呼び方を変えることで得られる効果として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア Aはシライさんの視点の言葉なので、真面目な様子が伝わりやすい。
イ Aは書き言葉なので、真剣な雰囲気の状態が伝わりやすい。
ウ Bは少年の視点の言葉なので、少年の気持ちが伝わりやすい。
エ Bは話し言葉なので、明るい雰囲気の状況が伝わりやすい。

☐

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

□(1) — 線①「体に染みつくとるんじやろうねえ」とありますが、何が染みついているのですか。文章中から三つ書き抜きなさい。

のにおい
のにおい
のにおい

□(2) ——線②「だんだん悲しくなってきた」とありますが、その理由を文章中の言葉を使って三十字以内で書きなさい。

[illegible]

③——線③「しばらくタオルを見つめた」とありますが、このときの少年の気持ちや述べられている部分を文章中から八字で書き抜きなさい。

□(4) — 線④「父とシライさんがいた」とありますが、二人が納屋に来た理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖父の思い出を撮るため。
イ 祖父のタオルを取るため。
ウ 少年の写真を撮るため。
エ 少年を食事に誘うため。

11



(重松 清「タオル」より)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

40 35 30

□(5)

——線⑤「いつもタオルを巻いとったろう」とありますが、「祖父」はどんなふうにタオルを巻いていたのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ねじって細くしたタオルを額にきつく巻き付けていた。

イ ねじって細くしたタオルを首に巻き付けていた。

ウ 細いタオルを首にゆるく巻き付けていた。

エ 細いタオルを何枚かまとめて額に巻き付けていた。

--

□(6)

——線⑥「じいさんをええ男にして」とありますが、そのためにはどうすればよいですか。十五字以内で書きなさい。

□(7)

——線⑦「額にきつく巻き付けた」とありますが、そうした少年が、祖父を亡くした悲しさをおさえられなくなったことが読み取れる一文を文章中から探し、初めの五字を書き抜きなさい。

□(8)

この小説の中で「タオル」は、少年にとってどのような役割を果たしていると思いますか。二十字以内で書きなさい。



タオル

得点

100点

教科書

P. 20 ~ P. 35

1 次の文の空欄^{くうらん}にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

2点×9 18点

□(1) 少年は、祖父の突然の死にとまどい、その死が悲しいと頭では

とができて、^②ことはできなかった。だが、雑誌記者のシライさん

から、祖父や父が写った取材写真を見せてもらい、話を^③うちに、次

第に祖父の死を受け止めていった。そして、祖父が^④ときにいつも頭

に巻いていたタオルを自分の頭に巻き付けた時、祖父のにおいを感じ、よう

やく祖父の死を^⑤ことができ、^②のだった。

ア 聞く イ 涙^{なみだ}を流す ウ 漁に出る

エ 受け入れる オ 理解する カ 笑う

□(2) この作品は、誰の視点からの描写かによって、人物の呼び方が変化してい

る。おじいさんのことを「祖父」と呼ぶ場合は「^①」の視点から、

「^②」と呼ぶ場合は「少年」の視点から、となっている。少年の視点

から描くことで、おじいちゃんに対する少年の^③が^④に伝わ

りやすくなっている。

ア 読者 イ お父さん ウ 行動の理由 エ 作者

オ おじいちゃん カ 気持ちの変化

2 次の——線の漢字はひらがなで、カタカナは漢字で書きなさい。

2点×12 24点

□(1) ご愁傷さま

□(2) 石を蹴る

□(3) 怪しい人物

□(4) 今が旬の魚

□(5) 愚息と出かける

□(6) 冥土に送る

□(7) アマいいちご

□(8) フンイキがいい

□(9) 一本ヅりの名人

□(10) 二十七キの船

□(11) コバチのおかず

□(12) 市場に魚を才口す

③ 次のア～カの各文のうち、——線の使い方が正しいものをすべて選び、記号

で答えなさい。

完答 8点

ア なくした時計が見つかり、かげんそうに喜んだ。

イ 周りが女性客ばかりで、彼は居心地が悪そうだった。

ウ 電車に乗り遅れそうだったので、じんわりと走った。

エ 遠くから波の音がかすかに聞こえてくる。

オ なぜ彼がそんなことをしたのかまたたく理解できない。

カ 父が怒っていることが文面から読み取れる。

□

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

50点

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(重松 清「タオル」より)

25 20 15 10 5

□(1) — 線①「父とシライさんがいた」のはなぜですか。文章中の言葉を使って書きなさい。

10点

□(2) — 線②「おもしろかったんじゃ」とありますが、何がおもしろかったのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

8点

ア おじいちゃんが漁に出る時にはいつもタオルを巻くこと。

イ おじいちゃんが家にいる時の写真はどれもデコが白いこと。

ウ おじいちゃんの写真の顔が日に焼けて真っ黒だったこと。

エ おじいちゃんが写真を撮られるときはいつもタオルを取ることに。

□(3) — 線③「おまえも頭に巻いてみいや」とありますが、何を頭に巻いてみると言っているのですか。十字以内で書きなさい。

9点

□(4) — 線④「潮のにおいが鼻をくすぐった」とありますが、その結果少年はどうなりましたか。少年の気持ちも踏まえて書きなさい。

15点

□(5) 少年がおじいちゃんのことを好きで、普段からよく見ていたことがわかる一文を文章中から探し、初めの五字を書き抜きなさい。

8点